

Kansai Economic Insight Monthly

2016/1/25

Vol.33 December/January

・ APIR “Kansai Economic Insight Monthly”は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

・ 本レポートの内容は、公益社団法人関西経済連合会『関西経済レポート』と連携しています。

・ レポート公開時期は毎月第3週金曜日を予定しています。

・ 執筆者は、稲田義久（甲南大学教授、APIR 数量経済分析センター長）、林万平・木下祐輔・James Brady（各 APIR 研究員）です。

・ 本編内の中国景気モニターは、APIR 中国経済分析のプロジェクトによるものであり、関西経済分析と連動して定期的に発信します。

・ 本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

目次

要旨	1
景気の現況	2
関空モニター	8
中国景気モニター	9
主要月次統計	13
Release Calendar	14

要 旨

- ✓ 11月の鉱工業生産指数は3カ月ぶりの前月比減少も、10-11月平均は7-9月平均比+1.3%の伸び。10-12月期は緩やかな伸びとなろう。
- ✓ 12月の貿易収支は2カ月ぶりの黒字。輸入は、原油価格の下落もあり、4カ月連続の前年比マイナス。一方、輸出は中国経済の減速もあり、3カ月連続の同マイナス。
- ✓ 12月の消費者態度指数は3カ月連続の改善、景気ウォッチャー調査（現状判断DI）も6カ月ぶりの改善。一方、先行き見通しは、暖冬が続き、冬物商品への売れ行きを不安視する声が多く、2カ月連続で悪化した。
- ✓ 9月の関西2府4県の現金給与総額は3カ月連続の上昇。一方、10月の「関西コア」賃金指数は4カ月ぶりの悪化となっており、賃金の回復が一服した可能性がある。
- ✓ 11月の大型小売店販売額は8カ月ぶりの前年比マイナス。百貨店のマイナスが響いた。
- ✓ 11月の新設住宅着工戸数は前年比減少し、2カ月ぶりのマイナス。12月関西のマンション契約率も2カ月ぶりに大幅減。
- ✓ 11月の有効求人倍率は3カ月ぶりの改善。一方、完全失業率は前月から横ばい。これまで減少していた非労働力人口が増加に転じており、職探しが一段落したようである。
- ✓ 12月の関空への訪日外客数は前年比+54.7%と35カ月連続のプラス。地域別に見ると、10月の関空への訪日外客数は依然上昇トレンドが続いている。
- ✓ 中国2015年10-12月期の実質GDP成長率は前期より減速。結果、2015年のGDP成長率は実質成長率が名目成長率を上回った。物価動態を見れば、生産者物価指数の下落が続いており、過剰生産の物価押し上げ圧力が厳しくなっている。

【関西経済のトレンド】

	2014年	2015年											
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
生産	↗	↗	↘	↗	↘	↘	↗	↗	↘	↗	↗	↘	
貿易	↗	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗
センチメント	↗	↗	↗	↗	↗	↘	↗	↘	↘	↘	↗	↘	↗
消費	↗	↗	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	
住宅	↘	↘	↘	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	
雇用	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	
公共工事	↘	↘	↘	↘	↗	↘	↗	↘	↘	↘	↘	↗	↗
中国	↘	↘	↗	↘	↘	↗	↗	↗	↘	↗	↗	↗	↘

【鉱工業生産動向】

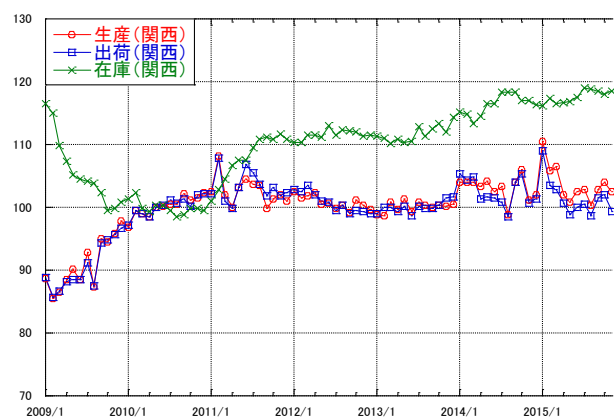
(1) 関西の生産動向

11月の鉱工業指数(速報値:季節調整済)を見ると、生産は102.5で前月比-1.5%、出荷は99.4で同-2.6%といずれも3カ月ぶりの減少。一方、在庫は118.6で同+0.4%と2カ月ぶりの上昇となった。なお、先月号で述べたように、同月実質輸出のマイナスを受けて、足下、生産は減少となった。

業種別に生産指数をみると、金属製品(同-17.9%, 2カ月連続)、はん用・生産用・業務用機械(同-4.8%, 2カ月ぶり)、情報通信機械(同-12.2%, 2カ月ぶり)等が減産となった。一方、電気機械(同+7.9%, 2カ月ぶり)、電子部品・デバイス(同+3.0%, 2カ月ぶり)、窯業・土石製品(同+2.9%, 4カ月ぶり)等が増産となった。

生産指数の10-11月平均は7-9月期に比して+1.3%の伸びとなった。12月の生産が底堅いものであれば、2期連続の緩やかな増産(ただし、前期は同+0.1%)となろう。

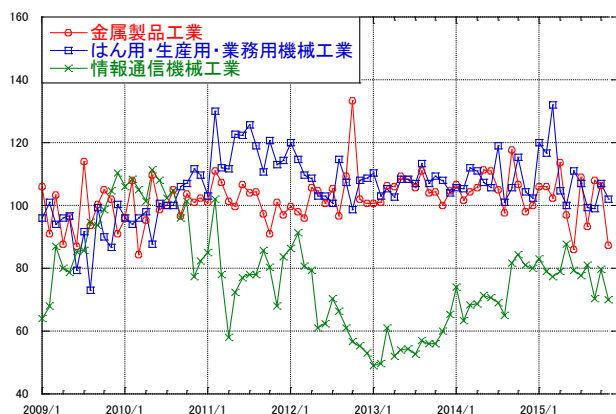
鉱工業指数の推移(関西:2015年11月まで、平成22年=100)



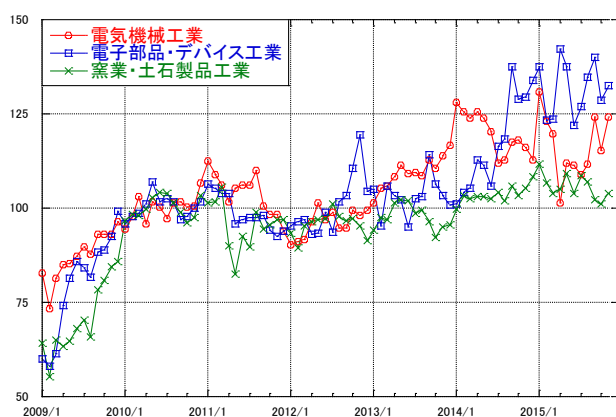
(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

業種別生産指数の推移(関西：2015年11月まで、平成22年=100)



業種別生産指数の推移(続き)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

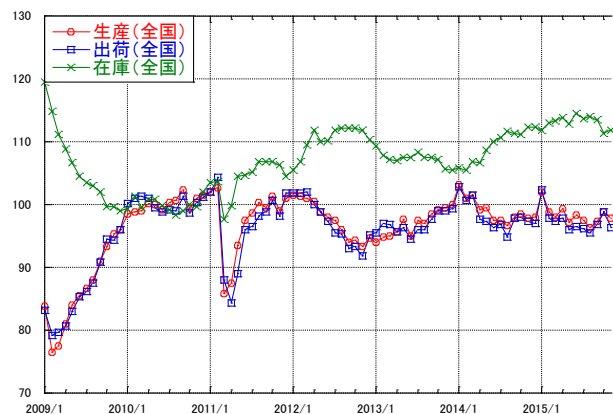
(2) 全国の生産動向

全国における11月の鉱工業生産指数(確報値、季節調整済)は97.9となり前月比-0.9%、出荷は96.4で同-2.4%といずれも3カ月ぶりの下落。なお、生産・出荷指数とも、いずれも速報値から小幅の上方修正(生産：同-1.0%、出荷：同-2.5%)。一方、在庫は111.9で同+0.4%と3カ月ぶりの上昇となった。速報値から変化なし。

業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械(同-2.4%)、化学(同-1.8%)、電子部品・デバイス(同-1.4%)等を中心に減産となった。一方、プラスチック製品(同+2.1%)、非鉄金属(同+1.9%)、その他(同+0.5%)等は増産となった。

速報の製造工業生産予測調査によれば、12月は同+0.9%の増産、1月は+6.0%の増産となっている。もし、予測と同様に鉱工業生産指数が推移すれば、10-12月期は前期比+1.5%の増産と3期ぶりのプラスとなる。

鉱工業指数の推移(全国：2015年11月まで、平成22年=100)



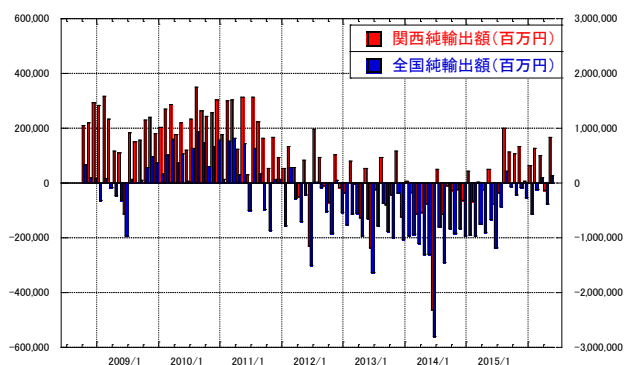
(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

【貿易動向】

(1) 純輸出

貿易概況(速報値)によれば、12月関西の貿易収支は1,675億円と2カ月ぶりの黒字となり、黒字幅は前年同月比+233.5%拡大した。全国の貿易収支(速報値)も1,402億円と2カ月ぶりの黒字となり、赤字幅は前年同月から8,058億円改善した。

貿易収支(百万円)：関西(左軸)・全国(右軸)推移(2015年12月まで)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

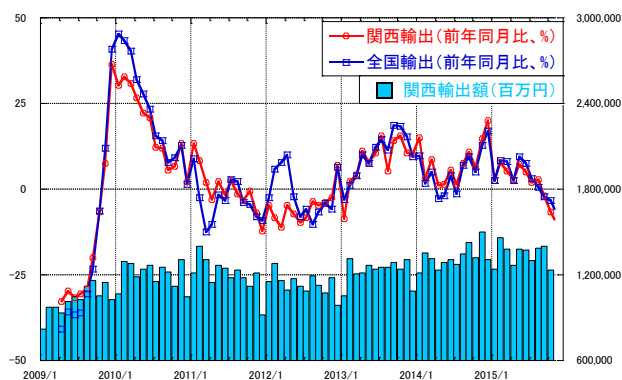
(2) 輸出

関西 12 月の輸出額(速報値)は 1 兆 3,385 億円。前年同月比-10.8%と 3 カ月連続の減少。財別に見れば、鉄鋼、半導体等電子部品の輸出が減少した。

全国 12 月の輸出額(速報値)は 6 兆 3,376 億円、前年同月比-8.0%と 3 カ月連続の減少。財別に見れば、鉄鋼、有機化合物、鉱物性燃料の輸出が減少。一方、自動車は増加した。

なお、足下、為替レート(税関長公示レートベース)は 122.63 円と前年同月比-3.4%の円高であった。円安による輸出額増加の伸びは、随分、薄まりつつある。

輸出(右、百万円)・前年同月比(左、%)推移(2015 年 12 月まで)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

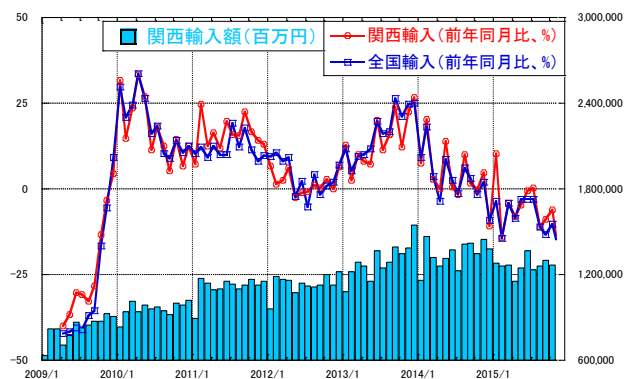
(3) 輸入

関西 12 月の輸入額(速報値)は 1 兆 1,709 億円、伸びは前年同月比-19.3%と 4 カ月連続の減少。財別に見れば、天然ガス及び製造ガス、原油及び粗油が減少した。

全国 12 月の輸入額(速報値)は 6 兆 1,973 億円、前年同月比-18.0%と 12 カ月連続の減少。財別に見れば、原油、液化天然ガス、石油製品等の輸入が減少している。

資源価格は引き続き低下傾向にあり、結果、輸入額は関西、全国ともマイナスとなった。

輸入(右、100 万円)・前年同月比(左、%)推移(2015 年 12 月まで)



(出所) 財務省「財務省貿易統計」

(4) 関西の地域別貿易

関西 12 月の貿易収支を地域別に見ると、対アジア貿易収支は+2,049 億円となり、23 カ月連続の黒字。黒字幅は前年同月比+8.6%と、4 カ月連続で改善した。輸出は 2 カ月連続の減少(同-10.4%)。財別に見れば、鉄鋼、半導体等電子部品等が減少した。輸入は 4 カ月連続の減少(同-14.7%)。財別に見ると、通信機、がん具及び遊戯用具等が減少した。

うち、対中貿易収支は-548 億円と 46 カ月連続の赤字も、赤字幅は 4 カ月連続で前年同月から縮小(同-34.4%)。輸出は 3 カ月連続で減少(同-10.6%)。輸入は 4 カ月連続の減少(同-14.9%)となった。

対米貿易収支は+999 億円と黒字基調が続いているが、黒字幅 3 カ月連続で前年から縮小した(同-12.1%)。うち、輸出は 2 カ月連続のマイナス(同-9.1%)。財別に見れば、建設用・鉱山用機械、鉄鋼等が減少した。輸入は 5 カ月ぶりの減少(同-5.6%)であり、財別に見れば、無機化合物、有機化合物等が減少した。

対 EU 貿易収支は+110 億円と 3 カ月ぶりの黒字となり、赤字幅は前年同月から+93.0%改善した。輸出は 3 カ月連続の減少(同-2.3%)。財別に見れば、有機化合物、半導体等製造装置等が減少した。輸入は 3 カ月ぶりの減少(同-6.4%)。財別に見れば、半導体等製造装置、医薬品等が減少した。

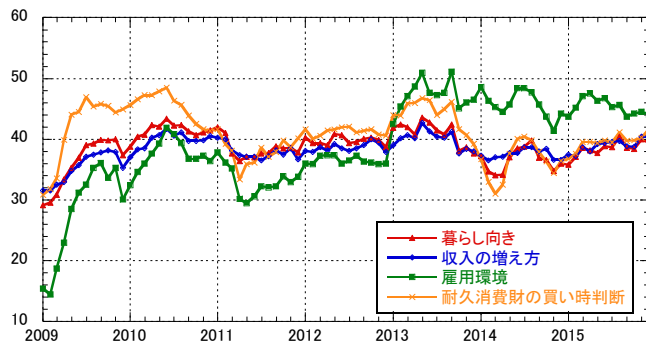
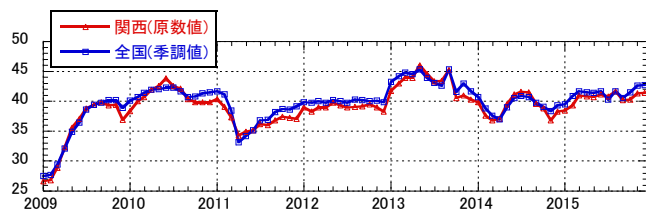
【消費者センチメント】

(1) 消費者態度指数の動向

関西の12月の消費者態度指数(原数値)は前月比+0.1ポイントの41.4と小幅改善。3カ月連続のプラス。全国(季節調整値)でも同+0.1ポイントの42.7とこちらも3カ月連続の改善。ガソリン価格の低下傾向が改善に寄与したものの、株価下落の影響もあり、小幅な伸びにとどまった。内閣府は消費者心理の基調判断を「持ち直しの動きがみられる」として据え置いた。

関西で同指数の構成項目をみると、「耐久消費財の買い時判断」が同+1.3ポイント改善(3カ月連続)した。一方、「収入の増え方」は同横ばい、「雇用環境」は同-0.4ポイント悪化(3カ月ぶり)、「暮らし向き」は同-0.5ポイント悪化(2カ月ぶり)した。

消費者態度指数(2015年12月まで)



(出所) 内閣府「消費動向調査」

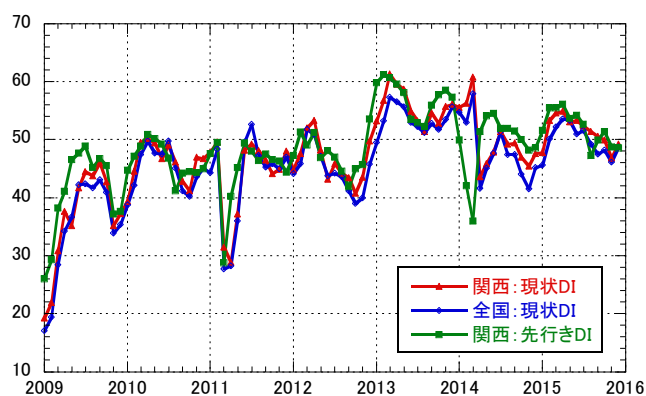
(2) 景気ウォッチャー指数の動向

関西の12月の現状判断DIは前月比+2.4ポイント上昇し49.2となり、6カ月ぶりの改善。しかし、景況感の良し悪しの分かれ目となる50を3カ月連続で下回っており、回復は鈍い。理由として、暖冬のため、衣料品や家電、食品を中心

とした季節商品の売れ行きに影響が出たことや、中国経済の減速、免税対象商品拡大から1年が経過したことによる減速感などが影響した。全国は同+2.6ポイント上昇し48.7となり、2カ月ぶりの改善となったが、判断の分かれ目となる50を5カ月連続で下回った。

また、先行き判断DIは、関西では48.5と前月比-0.2ポイント低下し、2カ月連続の下落。暖冬が続く見通しから、冬物商品への売れ行きを不安視する声が多く、先行き見通しを押し下げた。

景気ウォッチャー調査(2015年12月まで)



(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

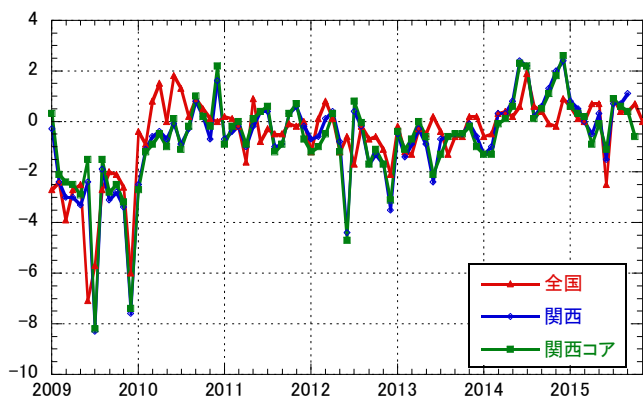
【所得・個人消費・住宅】

(1) 現金給与総額

9月の関西2府4県の現金給与総額(APIR推計)は26万3,489円で前年同月比+1.1%となり、3カ月連続の上昇。府県別では、兵庫県が同+2.3%(4カ月連続)、奈良県が同+1.6%(2カ月連続)、大阪府が同+1.3%(2カ月連続)、滋賀県が同+0.1%(2カ月連続)のプラス。一方、和歌山県が同-0.6%(3カ月ぶり)、京都府が同-1.5%(3カ月ぶり)のマイナスであった。

京都・大阪・兵庫の加重平均をとった速報性のある「関西コア」賃金指数(APIR推計)は10月に前年同月比-0.6%となり、4月ぶりの悪化となっており、賃金の回復は一服した可能性がある。

現金給与総額(前年同月比：％、2015年11月まで)



(注) 関西・関西コア(京都、大阪、兵庫)はAPIR推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(平成23年平均)で加重平均。

(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計調査」

全国(確報値)の現金給与総額をみると、11月は前年同月比で横ばい。内訳をみると、所定内給与は同+0.3%と小幅上昇(7カ月連続のプラス)、所定外給与は同+1.2%と5カ月連続の上昇。一方、特別給与は同-3.0%と5カ月ぶりのマイナス。特別給与の減少が賃金を押し下げた。

現金給与総額から物価上昇分(帰属家賃を除く総合)を除いた実質賃金は同-0.4%と、5カ月ぶりのマイナス。

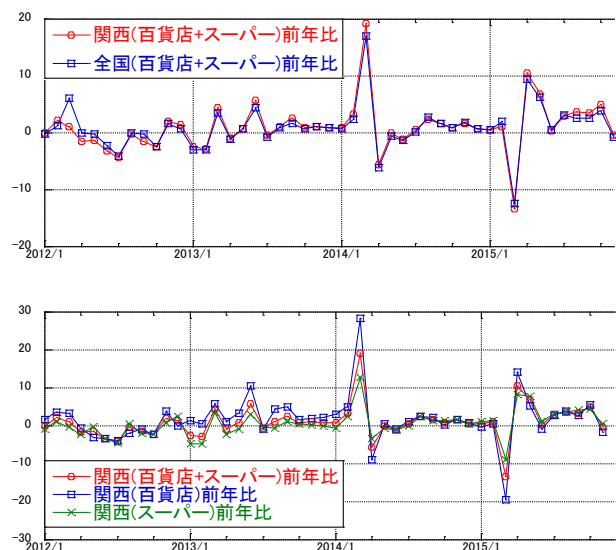
(2) 大型小売店販売額

関西11月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は、前年同月比-0.3%と8カ月ぶりのマイナス。百貨店は同-1.7%減少し、5カ月ぶりのマイナス。スーパーは同+0.6%と8カ月連続のプラスだが、伸びは前月(同+4.5%)から縮小。

全国11月の大型小売店販売額(全店ベース)は同-0.8%と8カ月ぶりのマイナスとなっている。

関西、全国共に好調であった消費が一転、マイナスとなった。

大型小売店販売額(前年同月比：％、2015年11月まで)

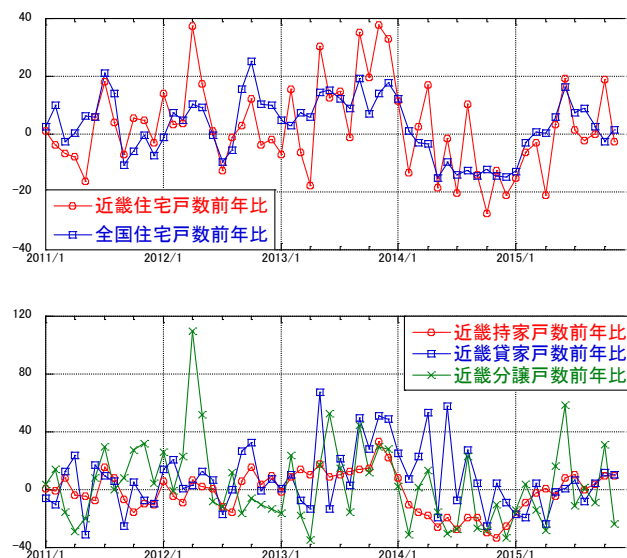


(注) 福井県を含む。(出所) 経済産業省「商業動態統計」

(3) 新設住宅着工の動向

関西11月の新設住宅着工戸数は11,877戸。前年同月比-2.6%と、2カ月ぶりのマイナス。全国は79,697戸と同+1.7%増加し、2カ月ぶりのプラス。

新設住宅着工(前年同月比：％、2015年11月まで)



(出所) 国土交通省「住宅着工統計」

関西の住宅着工を利用関係別にみると、持家は3,199戸。同+9.7%と6カ月連続の増加。貸家は5,231戸、同+10.6%

と3カ月連続のプラス。分譲は3,394戸、同-23.9%減少し、2カ月ぶりの大幅マイナス。

12月の関西マンション契約率は61.7%(季節調整値、APIR 推計)。好不調の目安となる70%を2カ月ぶりに下回り、前月(70.8%)から大きく低下した。首都圏も69.0%(季節調整値、APIR 推計)と、前月(85.5%)から大きく下落した。

【雇用動向】

(1) 求人倍率の動向

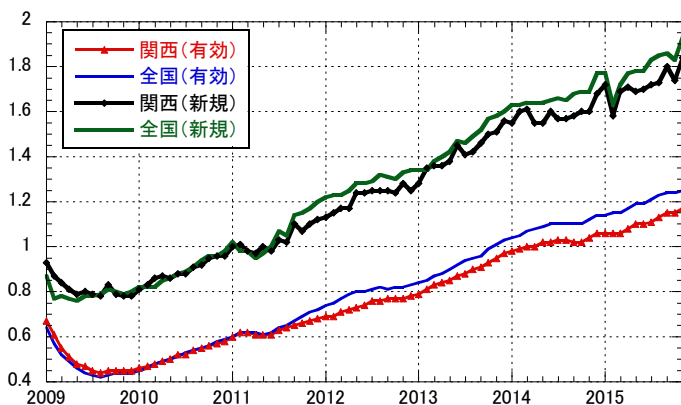
11月の関西の有効求人倍率は、1.17倍で前月比+0.02ポイント上昇し、3カ月ぶりの改善。1991年7月(1.18倍)に並ぶ高水準となった。全国は1.25倍で同+0.01ポイント小幅上昇。雇用情勢は引き続き堅調である。

府県別では、大阪府・奈良県で前月比+0.03ポイント、兵庫県では同+0.02ポイント、和歌山県では同+0.01ポイントの上昇。一方、京都府は横ばい、滋賀県は同-0.02ポイント低下した。

11月の関西の新規求人倍率は、1.84倍と前月比+0.1ポイント上昇。全国は1.93倍と同+0.1ポイント上昇した。

大阪の産業別新規求人数は、前年比+11.4%と2014年1月以来の2桁上昇となった。宿泊・飲食サービス業(2カ月連続の2桁増)、卸売・小売、生活関連サービス等インバウンド関連産業を中心に増加がみられる。

有効求人倍率の推移(季節調整値、2015年11月まで)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

関西2府4県有効求人倍率(2015年11月)

	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
11月	1.25	1.17	1.07	1.24	1.26	1.05	1.03	1.09
10月	1.24	1.15	1.09	1.24	1.23	1.03	1.00	1.08

(2) 完全失業率の推移

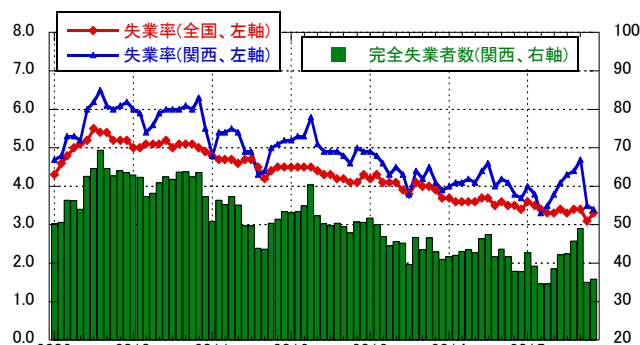
11月の関西の完全失業率(季節調整値：APIR 推計)は3.5%で前月から横ばい。これまで減少していた非労働力人口(季節調整値)が増加に転じており、職探しが一段落したようである。

関西の完全失業者数(季節調整値：APIR 推計)は35.9万人で前月から+0.9万人増加した。2カ月ぶりの悪化となったが、小幅にとどまった。

全国の完全失業率(季節調整値)は3.3%と前月から+0.2ポイント上昇し、2カ月ぶりの悪化となったが、低水準であり雇用情勢は堅調。完全失業者数(季節調整値)は217万人と前月比+11万人増加した。雇用情勢が改善し、よりよい職を求める自己都合退職者や新規求職者が失業者に加わったことが推測されるため。

15~64歳の就業率(原数値、全国ベース)は73.6%と、前月比-0.4ポイント低下したが、高水準が続いている。

完全失業率の推移(季節調整値：%、万人、2015年11月まで)



(出所) 総務省「労働力調査」

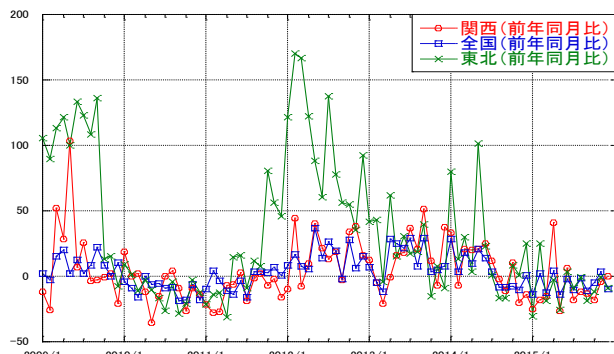
【公共投資】

(1) 公共工事請負金額

関西12月の公共工事請負金額は973億円で前年同月比+0.1%と6カ月ぶりの微増となった。全国は8,086億円で同-9.6%と2カ月ぶりのマイナス。東北は1,646億円で同-8.9%と6カ月連続のマイナスとなった。

季節調整値(APIR 推計)で見ると、関西は2カ月ぶりに前月から大幅増加、全国は3カ月ぶりの減少となった(関西：同+24.7%、全国：同-2.0%)。

公共工事請負金額(前年同月比：％、2015年12月まで)

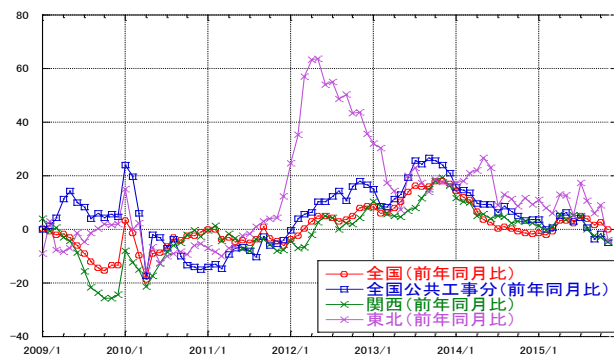


(出所) 東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

(2) 建設工事

関西11月の建設工事は5,610億円、前年同月比-4.6%と3カ月連続で減少した。東北は6,338億円、同-3.9%と52カ月ぶりに減少に転じた。全国は4兆7,120億円となり、同-0.1%と8カ月ぶりに微減。うち、全国の公共工事は2兆1,325億円で同-5.1%と3カ月連続のマイナスとなった。

建設工事(前年同月比：％、2015年11月まで)



(出所) 国土交通省「建設総合統計」

東北の建設工事は震災復興による大幅増の期間を経て、ついに減少に転じた。全国の伸びは微減だが、公共工事は引き続き減速トレンドにある。さらに、関西の建設工事も減少が続いている。建設動向の停滞感は一層強まっている。

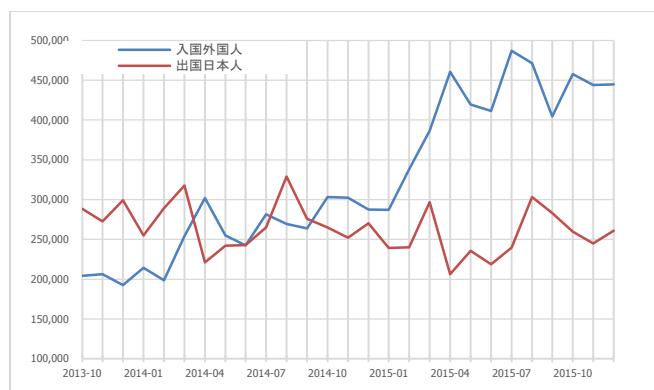
【関空モニター】

(1) 訪日外客数トレンド

12月の関空への訪日外客数は44万4,930人、前年同月比+54.7%と35カ月連続のプラスとなった。伸びは前月(+46.9%)から増加した。結果、2015年の訪日外客数は501.3万人となり、前年比+57.9%増加した。

出国日本人数は26万900人と同-3.4%と3カ月連続の減少となった。外国人旅客総数(出国・入国含め)は89万3,140人(同+53.5%)となった。

訪日外客数と出国日本人数(人、2015年12月まで)

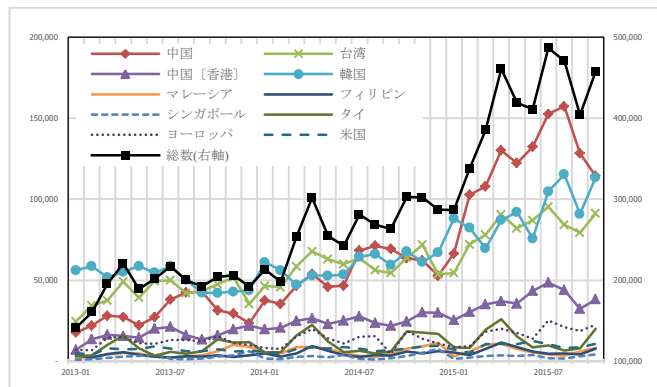


(出所) 一般財団法人関西空港調査会「KANSAI 空港レビュー」

(2) 地域別訪日外客数

訪日外客数を地域別にみると、10月は引き続き上昇トレンドが続いている。10月には中国(香港を除く)からの入国者数が11万4,313人(前年同月比+79.4%)と最も多かった。次いで、韓国が11万3,414人(同+67.3%)、台湾が9万1,226人(同+42.4%)、中国(香港)が3万8,331人(同+55.4%)となった。他のアジア各国からの入国者数は、タイから20,192人(同+9.0%)。マレーシアからは8,289人(同+5.0%)、フィリピンからは7,985人(同+31.5%)、シンガポールからは4,363人(同+26.5%)となった。他地域を見ると、ヨーロッパからは2万2,835人(同+21.7%)と13カ月連続のプラスになった。米国からは1万807人(同+35.4%)と14カ月連続のプラスであった。

地域別訪日外客数(2015年10月:人、右軸:総数、左軸:各国)



(出所) 法務省「出入国管理統計」

(3) 訪日外客支出

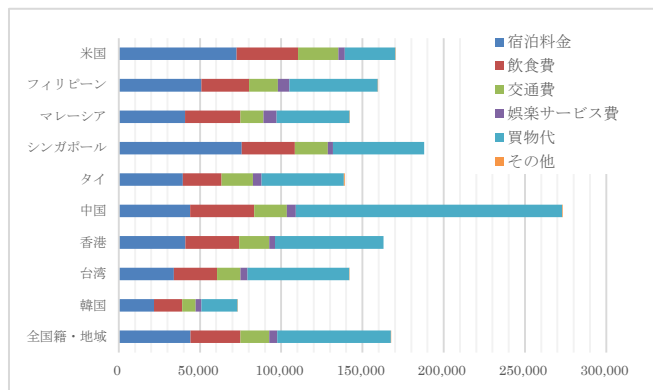
訪日外国人の支出額を見れば、2015年10-12月期に日本を訪れた外国人による平均消費額は16万7,699円(前年比+10.0%)であった。うち、訪日外客数が最大である中国の平均支出額は27万3,298円(同+18.7%)。支出全体の伸びは全体平均に比して大きい結果となった。なお、買い物代は16万3,928円と半分以上を占めており、爆買いに例えられる支出傾向がうかがえる。

関空への入国者数が多い他の国々を支出額が大きい順に見ると、シンガポール18万8,075円(同+26.3%)、米国17万243円(同+1.6%)、香港16万3048円(同+5.6%)、フィリピン15万9354円(同+33.8%)、マレーシア14万2,181円(同-8.6%)、台湾14万1,845円(同+6.0%)、タイ13万9,131円(同-4.8%)、韓国7万3,268円(同-8.7%)であった。中でも、フィリピン、シンガポールの伸びが中国を上回っている点が注目される。今後の観光客数の増加が期待される。一方で、タイ、マレーシア、韓国は伸びがマイナスとなった。2015年、これらの国では、しばしば旅行支出がマイナスであった。各国の経済動向が反映された結果であるとすれば、昨今の中国経済の動向が今後の中国人観光客の支出動向に与える影響には注意が必要である。

なお、今週、観光庁が発表した年間データ速報によれば、2015年暦年の訪日外客平均支出は17万6,168円(前年比

+16.5%)であり、トータルで平成27年の訪日外客消費額は3兆4,771億円となった。

国別訪日外客支出総額(2015年10-12月期:全国、円)



(出所) 観光庁「訪日外国人の消費動向」

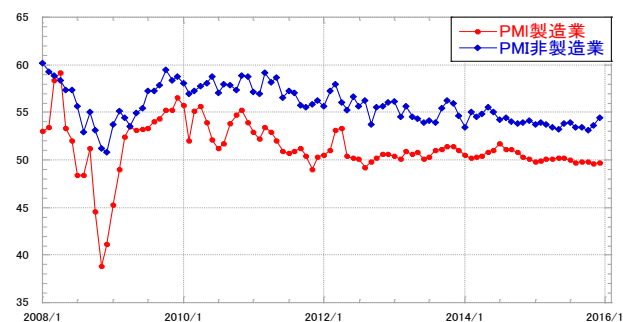
【中国景気モニター】

(1) センチメント

12月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は49.7となり、前月から+0.1ポイント上昇し、3カ月ぶりの改善となったが、5カ月連続で50を下回った。一方、非製造業購買担当者景況指数は54.4となり、前月から+0.8ポイント上昇。2カ月連続。

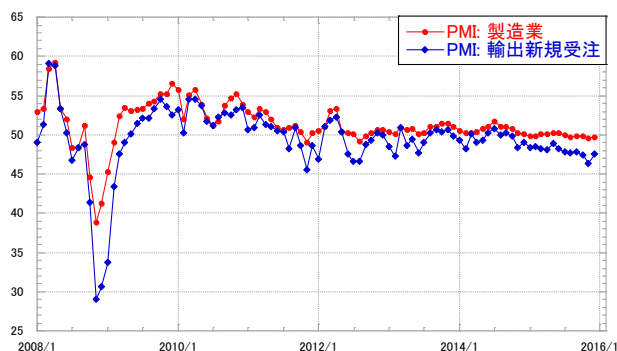
製造業のうち、生産指数は52.2となり、前月から+0.3ポイント上昇し、3カ月ぶりの改善。新規受注指数は50.2となり、同+0.4ポイント上昇し、2カ月ぶりの改善。また、輸出新規受注指数は47.5となり、同+1.1ポイントと上昇したが、低水準が続く。一方、雇用指数は47.4となり、-0.2ポイント下落。3カ月連続の悪化。

中国非製造業購買担当者景況指数(2015年12月まで:%)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

中国製造業購買担当者景況指数(2015年12月まで：％)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

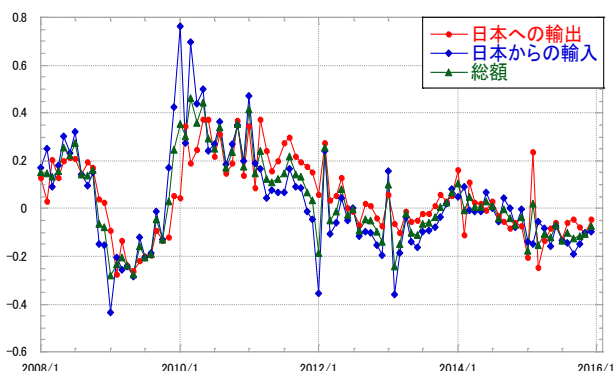
(2) 貿易動向

12月の中国の輸出額(速報値、ドル・ベース)は前年同月比-1.5%と減少幅は前月(同-7.2%)より縮小したが、6カ月連続のマイナス。輸入額は同-7.8%(速報値)と14カ月連続のマイナス。結果、貿易収支は+601億ドルとなり、22カ月連続の黒字となった。

うち、日本への輸出額は同-4.6%と10カ月連続のマイナス。日本からの輸入額は同-9.5%と14カ月連続のマイナスとなった。

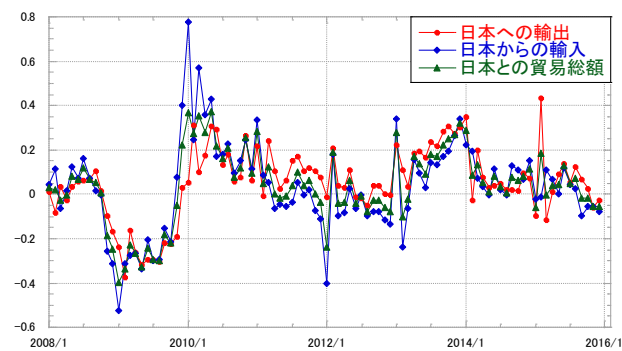
円ベースに換算すると、日本への輸出額は同-2.5%となり、2カ月連続のマイナス。日本からの輸入額は同-7.6%、4カ月連続のマイナスとなった。

日本との貿易 (前年同月比：ドル・ベース) (2015年12月まで：％)



(出所) 中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

日本との貿易 (前年同月比：円ベース) (2015年12月まで：％)



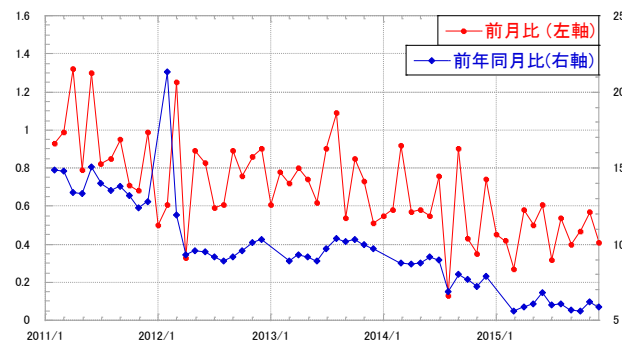
(出所) 中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

(3) 工業生産

12月の工業生産は前月比+0.41%となり、前月から-0.16%ポイント下落した。また、前年同月比は+5.9%となり、伸びは前月から-0.3%ポイント下落。2014年と比べ、2015年通年の平均は低い水準となった。

産業別に見ると、自動車製造業(同+12.0%)、有色金属圧延加工業(同+11.7%)、化学原料・化学製品製造業(同+9.1%)、食品製造業(同+8.5%)等が高い伸びを示す一方で、鉄道・輸送機器製造業(同+3.8%)、専用設備製造業(+3.2%)、通用設備製造業(同+1.2%)、電力・熱力生産・供給業(同-1.7%)等は比較的低調な伸びにとどまった。注目すべき自動車製造業の伸びは前月(同+13.0%)に続き、3カ月連続の高い伸びとなった。

工業生産指数(2015年12月まで：％)



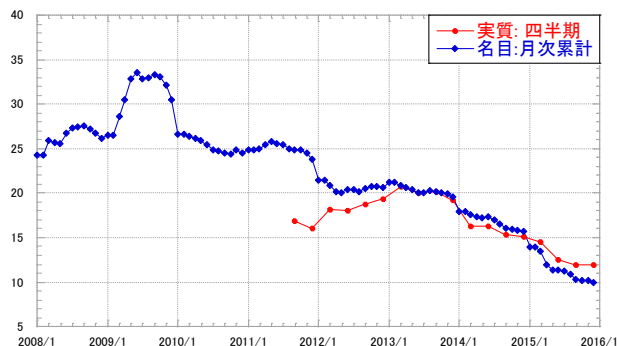
(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(4) 固定資産投資

1-12 月期の(累積)固定資産投資(名目)は前年同期比+10.0%、前月(1-11 月期:+10.2%)から-0.2 ポイント低下。2015 年に入って以降、低水準が続いている。

産業別にみれば、第 1 次産業は同+31.8%、1-11 月期(同+28.7%)より+3.1%ポイント上昇。第 2 次産業は同+8.0%、1-11 月期(同+8.1%)から-0.1%ポイント低下。第 3 次産業は同+10.6%、1-11 月期(同+11.0%)から-0.4%ポイント低下した。

固定資産投資 (2015 年 12 月まで : %) (累積伸び率)

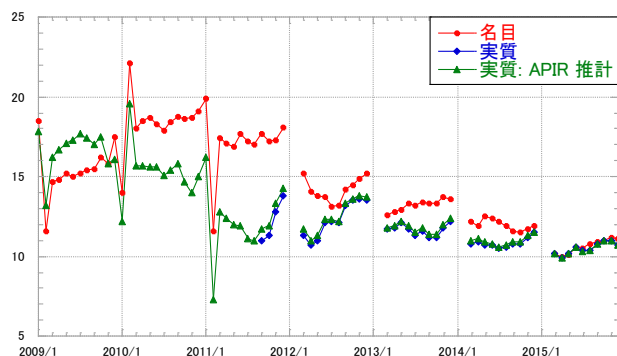


(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(5) 消費

12 月の社会消費品小売総額の名目成長率は前年同月比+11.1%、前月(同+11.2%)から小幅下落。緩やかだが、2015 年 4 月(同+10.0%)から回復が続いている。

社会消費品小売総額 (2015 年 12 月まで : %)



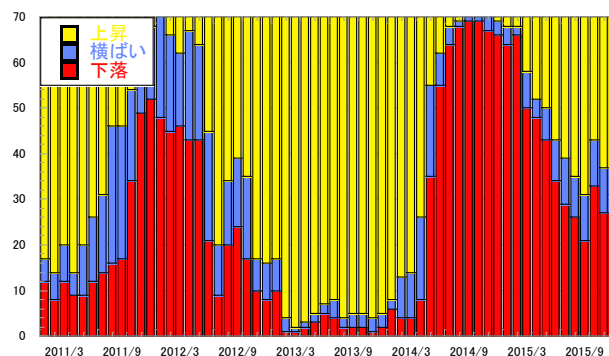
(注) APIR 値は小売価格指数を用いて計算した値

(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(6) 不動産市場

不動産価格(新築住宅価格)を見ると、中国主要 70 都市のうち、12 月は 27 都市で前月から下落した。39 都市で同上昇、4 都市で横ばいとなった。

新築住宅価格の主要都市集計 (2015 年 12 月まで : 都市数)



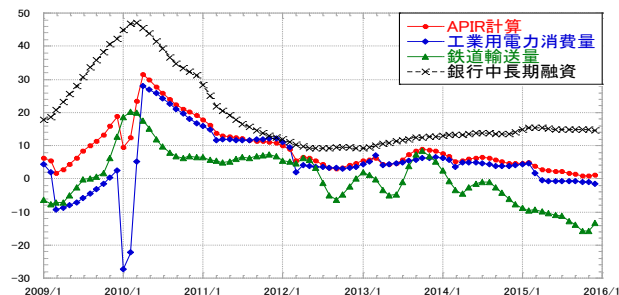
(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(7) リコノミクス指数

景気の動向をよく示す指数として、本研究所ではリコノミクス指数を参考に中国経済のトレンドを表している。

2015 年 12 月のリコノミクス指数(APIR 試算)は前年比+1.2%となった。内訳をみると、銀行中長期融資は同+14.6%、前月(同+14.8%)から-0.2%ポイント低下した。工業用電力消費量は同-1.5%、前月(同-1.0%)から-0.5%ポイント低下。また、鉄道輸送量は同-13.4%、前月(同-15.8%)から小幅上昇。リコノミクス指数から見た 12 月の中国経済は回復の兆しが見られない。

APIR 試算のリコノミクス指数とその内訳(2015 年 12 月まで : %)



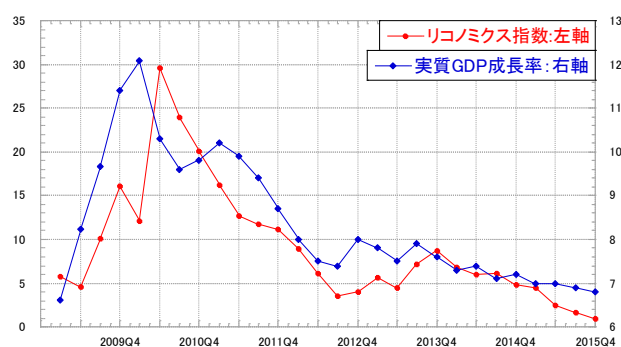
(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(8) GDP

2015 年 10-12 月期の実質 GDP 成長率は前年同期比 +6.8%となり、前期(同+6.9%)より減速した。結果、2015 年の GDP 成長率(速報値)によれば、実質は 6.9%、名目は 6.4%となり、実質 GDP が名目 GDP を上回る結果となった。また、物価動態を見れば、2015 年の消費者物価指数は前年比+1.4%上昇したが、生産者物価指数は同-5.2%となり、下落が続いている。過剰生産の物価押し上げ圧力が激しくなっている。

業種別にみると、第 1 次産業の成長率は同+3.9%、第 2 次産業は同+6.0%、第 3 次産業は同+8.3%となった。第 3 次産業は比較的堅調な伸び率である。

APIR 試算のリコノミクス指数と実質 GDP 成長率の推移
(2015 年 10-12 月期まで : %)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

Contact : 林万平・木下祐輔・James Brady

Tel. 06-6485-7695,

E-mail. contact@apir.or.jp

【主要月次統計】

月次統計	14/12M	15/1M	15/2M	15/3M	15/4M	15/5M	15/6M	15/7M	15/8M	15/9M	15/10M	15/11M	15/12M
景況感													
[関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、合計)	47.6	47.8	53.3	54.6	54.9	53.1	53.3	52.4	51.4	50.5	49.9	46.8	49.2
[関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、家計)	48.2	47.4	52.3	54.1	55.0	53.4	53.6	51.2	50.4	50.8	49.5	44.2	45.7
[関西]景気ウォッチャー調査(先行き、合計)	48.6	51.6	55.5	55.5	56.1	53.7	54.2	52.6	47.3	49.9	51.4	48.7	48.5
[全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、合計)	45.2	45.6	50.1	52.2	53.6	53.3	51.0	51.6	49.3	47.5	48.2	46.1	48.7
[全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、家計)	44.2	43.9	48.4	50.9	53.2	53.6	50.4	50.8	48.8	47.0	48.1	44.4	47.7
[全国]景気ウォッチャー調査(先行き、合計)	46.7	50.0	53.2	53.4	54.2	54.5	53.5	51.9	48.2	49.1	49.1	48.2	48.2
消費者心理・小売り													
[関西]消費者態度指数(原数値)	38.3	38.5	39.3	41.0	40.8	40.7	41.2	40.8	41.7	40.2	40.3	41.3	41.4
[関西]暮らし向き(原数値)	36.0	35.8	37.1	38.5	38.2	37.7	38.9	38.7	40.4	38.6	38.4	40.0	39.5
[関西]収入の増え方(原数値)	36.6	37.5	37.2	38.7	38.0	39.2	39.4	39.6	39.7	38.9	38.8	40.4	40.4
[関西]雇用環境(原数値)	44.2	43.7	45.2	47.1	47.5	46.3	46.8	45.3	45.6	43.7	44.2	44.5	44.1
[関西]耐久消費財の買い時判断(原数値)	36.4	36.8	37.6	39.6	39.6	39.4	39.8	39.5	41.1	39.7	39.8	40.3	41.6
[全国]消費者態度指数(季節調整値)	39.3	39.5	40.9	41.7	41.5	41.4	41.7	40.3	41.7	40.6	41.5	42.6	42.7
[関西]大型小売店販売額(10億円)	419.0	334.9	289.7	327.0	310.9	324.8	315.4	337.8	315.4	297.9	316.4	326.9	UN
[関西]大型小売店販売額(前年同月比、全店)	0.7	0.6	1.1	-13.4	10.6	6.9	0.4	3.0	3.7	3.5	5.0	-0.3	UN
[全国]大型小売店販売額(10億円)	2,155.8	1,721.5	1,498.6	1,715.0	1,608.0	1,692.8	1,641.2	1,705.7	1,605.6	1,511.4	1,607.2	1,650.1	UN
[全国]大型小売店販売額(前年同月比、全店)	0.7	0.6	2.0	-12.3	9.5	6.3	0.6	3.2	2.6	2.6	4.0	-0.8	UN
住宅・建設													
[関西]新設住宅着工(戸数)	11625	9605	9002	10832	9823	10416	14330	10210	12490	11697	12872	11877	UN
[関西]新設住宅着工(前年同月比)	-21.1	-15.0	-6.2	-3.0	-20.9	3.2	19.2	1.7	-2.1	-0.1	19.0	-2.6	UN
[全国]新設住宅着工(戸数)	76416	67713	67552	69887	75617	71720	88118	78263	80255	77872	77153	79697	UN
[全国]新設住宅着工(前年同月比)	-14.7	-13.0	-3.1	0.7	0.4	5.8	16.3	7.4	8.8	2.6	-2.5	1.7	UN
[関西]マンション契約率(季節調整値)	75.6	79.3	69.9	70.4	73.6	70.5	71.8	71.7	79.5	69.3	67.9	70.8	61.7
[関西]マンション契約率(原数値)	73.0	70.9	67.1	72.7	74.2	75.2	74.8	75.1	79.4	67.9	68.6	70.2	59.6
[全国]マンション契約率(季節調整値)	70.3	69.5	74.5	75.2	74.5	72.1	75.4	73.6	76.6	72.3	79.7	85.5	69.0
[全国]マンション契約率(原数値)	71.0	74.9	74.5	79.6	75.5	71.1	78.7	83.7	74.3	66.0	68.8	82.1	64.8
[関西]公共工事前払保証額(10億円)	97.2	70.6	64.4	112.4	263.4	127.6	200.4	134.6	103.2	128.6	123.0	85.4	97.3
[関西]公共工事前払保証額(前年同月比)	-13.7	-25.1	-18.3	-14.9	40.9	-26.5	6.4	-18.2	-11.6	-13.4	-18.2	-3.9	0.1
[全国]公共工事前払保証額(10億円)	894.4	670.8	712.2	1,275.5	1,836.1	1,129.4	1,556.4	1,463.2	1,113.2	1,246.1	1,253.0	872.0	808.6
[全国]公共工事前払保証額(前年同月比)	1.0	-13.7	2.3	-12.4	4.4	-14.0	-1.8	-10.1	-1.3	-10.9	-4.8	3.3	-9.6
[関西]建設工事(総合、10億円)	609.6	600.8	584.1	573.7	467.9	467.5	487.0	500.3	507.4	521.0	540.7	561.0	UN
[関西]建設工事(総合、前年同月比)	2.4	1.4	-0.2	1.0	5.8	3.8	5.4	5.2	0.2	-2.4	-2.8	-4.6	UN
[全国]建設工事(総合、10億円)	4,834.6	4,611.0	4,510.3	4,520.2	3,632.1	3,549.4	3,727.0	3,934.5	4,195.9	4,402.8	4,642.3	4,712.0	UN
[全国]建設工事(総合、前年同月比)	-1.7	-1.3	-2.1	-0.7	3.4	3.3	2.5	5.2	4.1	1.6	2.6	-0.1	UN
[全国]建設工事(公共工事、10億円)	2,344.3	2,188.1	2,127.4	2,140.9	1,445.8	1,383.9	1,454.4	1,550.8	1,717.3	1,865.7	2,067.3	2,132.5	UN
[全国]建設工事(公共工事、前年同月比)	3.7	3.6	0.2	0.8	4.9	6.4	3.1	4.4	0.8	-3.5	-1.5	-5.1	UN
生産													
[関西]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	102.1	110.5	105.9	106.5	102.1	100.9	102.6	102.8	100.4	101.6	104.1	102.5	UN
[関西]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	0.9	8.2	-4.2	0.6	-4.1	-1.2	1.7	0.2	-2.3	1.2	1.3	-1.5	UN
[関西]出荷指数(原数値、前年同月比)	0.7	1.8	-0.7	0.3	-0.6	-4.8	0.0	-0.4	0.1	1.0	-4.5	0.0	UN
[関西]在庫指数(原数値、前年同月比)	1.5	0.8	2.2	2.8	1.9	0.3	0.9	0.5	-0.3	0.2	0.9	0.0	UN
[関西]出荷指数(季節調整値、10年=100)	101.3	109.0	103.6	102.9	100.7	98.8	100.0	100.5	98.7	100.6	102.1	99.4	UN
[関西]出荷指数(季節調整値、前月比)	0.6	7.6	-5.0	-0.7	-2.1	-1.9	1.2	0.5	-1.8	1.9	0.5	-2.6	UN
[関西]在庫指数(季節調整値、10年=100)	116.4	116.2	117.4	116.5	116.7	116.9	117.6	119.0	118.0	118.4	118.1	118.6	UN
[関西]在庫指数(季節調整値、前月比)	-0.6	-0.2	1.0	-0.8	0.2	0.2	0.6	1.2	-0.8	0.3	-0.4	0.4	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	98.1	102.1	98.9	98.1	99.3	97.2	98.3	97.5	96.3	97.4	98.8	97.9	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	0.2	4.1	-3.1	-0.8	1.2	-2.1	1.1	-0.8	-1.2	1.1	1.4	-0.9	UN
[全国]出荷指数(原数値、前年同月比)	-0.1	-2.1	-2.9	-2.3	0.2	-3.2	1.8	-0.4	0.6	-1.5	-0.8	0.0	UN
[全国]在庫指数(原数値、前年同月比)	6.2	5.6	7.0	6.2	6.6	3.9	4.0	-0.8	2.1	2.1	0.2	0.0	UN
[全国]出荷指数(季節調整値、10年=100)	97.1	102.4	97.9	97.3	97.9	96.0	96.6	96.2	95.5	96.8	98.8	96.4	UN
[全国]出荷指数(季節調整値、前月比)	-0.2	5.5	-4.4	-0.6	0.6	-1.9	0.6	-0.4	-0.7	1.4	2.1	-2.4	UN
[全国]在庫指数(季節調整値、10年=100)	112.3	111.8	113.0	113.4	113.8	112.9	114.6	113.7	114.0	113.6	111.4	111.9	UN
[全国]在庫指数(季節調整値、前月比)	-0.1	-0.4	1.1	0.4	0.4	-0.8	1.5	-0.8	0.3	-0.4	-1.9	0.4	UN
労働													
[関西]現金給与総額(2府4県、前年同月比)	2.4	0.8	0.5	0.0	-0.5	0.3	-1.5	0.7	0.7	1.1	UN	UN	UN
[関西]現金給与総額(2府1県、前年同月比)	2.6	0.6	0.3	0.2	-0.9	-0.1	-1.1	0.9	0.6	1.2	-0.6	UN	UN
[全国]現金給与総額(前年同月比)	0.9	0.6	0.1	0.0	0.7	0.7	-2.5	0.9	0.4	0.4	0.7	0.0	UN
[関西]完全失業率(季節調整値)	3.7	4.0	3.8	3.3	3.5	3.8	4.1	4.3	4.4	4.7	3.5	3.5	UN
[関西]完全失業率(原数値)	3.4	4.2	4.0	3.6	3.5	3.7	3.9	4.3	4.4	4.5	3.6	3.4	UN
[全国]完全失業率(季節調整値)	3.4	3.6	3.5	3.4	3.3	3.3	3.4	3.3	3.4	3.4	3.1	3.3	UN
[関西]新規求人倍率(季節調整値)	1.68	1.72	1.58	1.69	1.71	1.69	1.70	1.72	1.73	1.8	1.7	1.8	UN
[全国]新規求人倍率(季節調整値)	1.77	1.77	1.63	1.72	1.77	1.78	1.78	1.83	1.85	1.9	1.8	1.9	UN
[関西]有効求人倍率(季節調整値)	1.06	1.06	1.06	1.06	1.08	1.10	1.10	1.11	1.13	1.2	1.2	1.2	UN
[全国]有効求人倍率(季節調整値)	1.14	1.14	1.15	1.15	1.17	1.19	1.19	1.21	1.23	1.2	1.2	1.3	UN
国際貿易													
[関西]純輸出(10億円)	50.2	-76.0	-37.6	201.1	114.9	107.8	134.0	7.8	65.0	127.5	100.8	-27.7	167.5
[関西]輸出(10億円)	1,500.7	1,304.8	1,242.4	1,459.2	1,382.7	1,264.3	1,383.4	1,374.6	1,299.4	1,386.8	1,398.2	1,237.0	1,338.5
[関西]輸出(前年同月比)	14.7	20.0	2.5	7.9	5.3	2.7	7.3	4.9	2.0	2.8	-1.9	-6.5	-10.8
[関西]輸入(10億円)	1,450.5	1,380.8	1,280.0	1,258.1	1,267.8	1,156.6	1,249.4	1,366.8	1,234.4	1,259.4	1,297.3	1,264.7	1,170.9
[関西]輸入(前年同月比)	4.7	-10.9	10.2	-14.1	-4.2	-8.1	-4.8	-0.5	0.4	-11.0	-8.8	-6.0	-19.3

注：鉱工業生産 輸送機械工業は鋼船・鉄道車両除く。

Release Calendar for DEC/JAN

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
28-Dec	29-Dec	30-Dec	31-Dec	1-Jan 中国製造業 PMI (12月)
4-Jan	5-Jan	6-Jan	7-Jan	8-Jan 毎月勤労統計 (11月:速報値) 近畿鉱工業生産指数 (11月速報) 中国輸出入 (12月:速報値)
11-Jan 近畿貿易統計 (10月確報) 近畿貿易統計 (11月速速)	12-Jan 景気ウォッチャー調査 (12月) 消費動向調査(12月)	13-Jan	14-Jan 商業動態調査 (11月:確報値)	15-Jan 公共工事前払保証額 統計(12月)
18-Jan 建設総合統計(11月) 全国鉱工業生産指数 (11月:確報値) 中国不動産市場 (12月)	19-Jan マンション契約率 (12月) 中国工業生産(12月) 中国固定資産投資 (12月) 中国消費小売総額 (12月) 10-12月期中国 GDP	20-Jan	21-Jan	22-Jan 毎月勤労統計 (11月:確報値)
25-Jan 全国貿易統計 (12月:速報) 近畿貿易統計 (12月速報)	26-Jan 近畿鉱工業生産指数 (11月確報)	27-Jan 10-12月期中国 求人倍率	28-Jan 商業動態調査 (12月:速報値) 全国貿易統計 (12月:確速)	29-Jan 求人倍率(12月) 完全失業率(12月) 新設住宅着工(12月) 全国鉱工業生産指数 (12月:速報値)